国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が共催で募集していた中学生の「税についての作文」で、菅原陽彦さん（生保内中学校１年）の作品「入湯税」と水平駿さん（角館中学校２年）の作品「暮らしと税金」が、仙北市納税貯蓄組合連合会長賞を受賞しましたので、全文（原文のまま）をご紹介いたします。

菅原　陽彦さん（生保内中学校1年）

「入湯税」

僕の住んでいる仙北市田沢湖には、沢山の温泉があります。温泉を利用する時支払う料金には、入湯税という税金も入っています。温泉に入るだけなのに何で税金がかかるのか不思議でした。

この入湯税は、仙北市の観光振興や環境衛生施設、鉱泉源の保護管理施設の整備などにつかわれる税金です。具体的には、温泉施設を建てるための費用、温泉を掘り出す時の費用、温泉施設の修繕時の費用など温泉施設の整備に必要な費用に使われています。

仙北市に旅行に来て温泉を利用してくれる方々や市民の方々が一日温泉を利用する度に課税される税金で温泉施設の維持、継続に役立っているのでとても良いことだと思いました。温泉も限りある資源なので大切に利用して行かなければならないと思います。昔と比べて温泉の量も少なくなっていると聞いたことがあります。冬になるとスキー場によく行きますが、ゲレンデのすみから温泉のにおいがしてきます。雪で凍った道路も温泉の排湯を利用して溶かしたり、温泉はいろいろな利用方法があります。

この入湯税は、鉱泉浴場（温泉）に入る際に課税されますが、僕たち中学生（12才未満の人にはかかりません。）も大人と同じように納めていることになります。入湯税の税額は全国で平均、入浴客一人一日につき百五十円が標準のようです。こうして支払った入湯税は、経営者の方が市へ納入します。中学校の近くにも公衆浴場があります。一度利用したことがあります。とても気持ちよく、家の風呂とは違い広く開放感があり、リラックスできました。温泉の効果はいろいろあると思いますが、僕は温泉の中で少し浮力に作用され「フワッ」と感じるところが好きです。

仙北市には、いろいろな種類の温泉があるので全てを回ってみたいです。そしてその度にしっかり入湯税を課税し、温泉施設の維持に役立てて使ってほしいです。

自分の住んでいる仙北市の温泉を、友だちや知り合いの方々に、しっかり説明できて、みなさんが支払ってくれた入湯税で温泉施設等が成り立っていることも伝えたいと思います。

今回、入湯税について調べ、自分が知らないうちに支払っていた税金を、もっと調べてみたい、と思いました。

仙北市の大きな財産ともいえる温泉や、他にも道路や学校など僕たちの地域の大切なものを支えているのが税金だとわかり、税金の大切さを改めて考えることができてよかったです。

税に関する習字

仙北市納税貯蓄組合連合会主催の小学生の「税に関する習字」で、佐々木祐奈さん（中川小学校６年）の作品が最優秀賞を受賞しました。

最優秀賞

「税に関する習字」で、最優秀賞に輝いた佐々木祐奈さん。

税についての作文

身近な＼税／を考えよう

水平　駿さん（角館中学校2年）

「暮らしと税金」

国や都道府県・市町村は、私たちが豊かで安心した暮らしができるように、いろいろな公共サービスを行っています。これらの公共サービスを行うために必要な費用は、国民が納めている税金によって賄われています。税金が私たちの暮らしの中でどのような役割をはたしているのか、疑問に思いました。

国の収入は平成三十年度一般会計予算における歳入のうち、租税及び印紙税収入で賄われる額は約五十九兆一千億円で、歳入全体の６割強を占めています。税収のトップ３は、所得税、消費税、法人税です。中でも消費税は5歳の子どもから、80歳の高齢者まで、物を買うとバランスよくはらわれる税金です。

最近の日本は、少子高齢化が目立つ社会と言っても過言では、ありません。高齢者一人に対して、支える若者がどんどん減ってきています。この国の収入である、九十七兆七一二八億円をどのように利用しているのか。また、一番多く利用しているのは、どのようなことなのか、気になります。

平成三十年度一般会計予算は、約九十七兆七千億円です。このうち、歳出についてみると、社会保障費、国債の元利払いに充てられる費用（国債費）、地方交付税交付金等で歳出全体の８割弱を占めています。歳出では、社会保障がトップで、全体の三分の一に当たります。では、なぜ社会保障が歳出でトップなのでしょうか。そもそも社会保障とは何なのか。疑問に思いました。

社会保障とは、私たちが安心して生活していくために必要な公的サービスのことで、医療、年金、福祉、介護、生活保護のしくみのことです。今、我が国では、少子高齢化が進んでいますが、この問題の一つは、社会保障の費用が増えていくことであり、もう一つは、その費用を負担する働き手が減っていくことです。働き手（20歳から64歳）が高齢者（65歳以上）一人に対して支えたとき、二千年は三・六人でした。しかし、だんだん時が経つにつれ働き手が減り、高齢者が増えることによって、比率がだんだんと縮まっていきます。二千五十年の比率を予測してみると、働き手は一・二人で高齢者一人を支えなければなりません。

老後の安定した生活や健康で文化的な社会を実現するには、大きな費用を必要とします。その財源の中心は税金です。政府からどれだけ公共サービスを受け、その費用をどう負担すべきか、考えていきましょう。少子高齢化は止まることなく、進み続けていくでしょう。

だからこそ、支え合いを大切にし、今現在を大切にしていきたいと僕は思います。税金とは大切だと感じました。

入選　おめでとうございます

最優秀賞以外の入選者は次のとおりです。
※氏名の表記は原文のまま掲載しています。
（敬称略）

▼金賞＝やつやなぎわか（角館小学校１年）、石川才稀（神代小学校４年）、西宮理央（角館小学校５年）
▼銀賞＝田口らな（角館小学校２年）、山口海嘉（神代小学校３年）、佐々木心（角館小学校４年）、佐々木棟旺（西明寺小学校５年）
▼銅賞＝すずきこころ（角館小学校１年）、門脇知奏（角館小学校３年）、村岡すみれ（角館小学校４年）、青山颯羽（中川小学校６年）

税に関する習字